

パン用小麦新品種「ゆきちから」の 高品質・安定栽培法

福島県農業試験場 種芸部・会津地域研究支場・相馬支場
平成13年～15年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 02-02-13150000

部門名 普通畑作物—小麦—施肥法、栽植様式・栽植密度

担当者 丹治克男・二瓶直登・渡部 隆・斎藤正明・半沢伸治・木田義信

I 新技術の解説

1 要旨

製パン適性の高い新品種「ゆきちから」の品質を高めるための適正な播種時期・播種量・施肥量について明らかにした。

- (1) 「ゆきちから」の播種期は、中通り・浜通りは10月下旬、会津では9月下旬から10月上旬が適し、播種量8kg/10a程度で品質・収量が安定する。
- (2) 「ゆきちから」の基肥窒素量は10kg/10aとし、多収と子実の高蛋白化のためには、幼穂形成期と出穂期に窒素成分各3kg/10aの2回の追肥が効果的である。
- (3) 成熟期の穂数が800本/㎡以下の範囲では倒伏がみられず、穂数に比例し収量は増加する。このため越冬後の生育量が不足している場合や、倒伏のおそれがない場合には、幼穂形成期追肥の増量や減数分裂期追肥の施用も効果的である。

2 期待される効果

「ゆきちから」の高品質化により、製パン適性の高い小麦の生産が図られる。

3 適用範囲

対象地域は、福島県の会津平坦部および中通り・浜通り地方とする。

4 普及上の留意点

播種法は、ドリル播きとする。

生育量が多すぎる場合、倒伏することがあるので、基肥量は過剰にしない。

II 具体的データ等

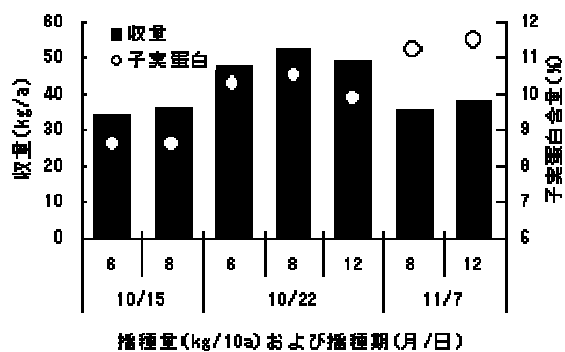


図1 「ゆきちから」の播種期・播種量と収量・子実蛋白含量
(福島農試、2003年産)

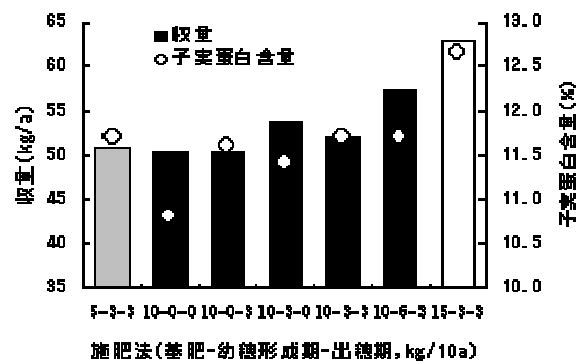


図2 「ゆきちから」の施肥法と収量・子実蛋白含量
(福島農試、2003年産)

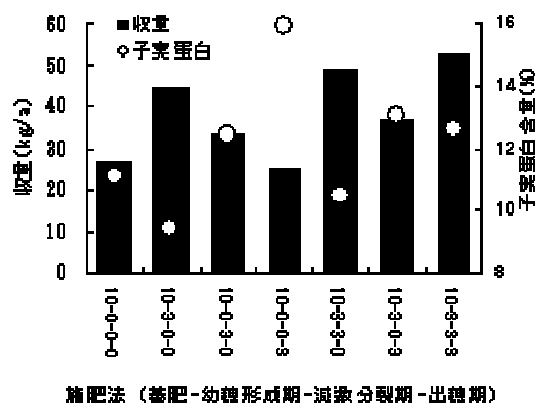


図3 「ゆきちから」の施肥法と収量・子実蛋白含量
(会津地域研究支場、2003年産)

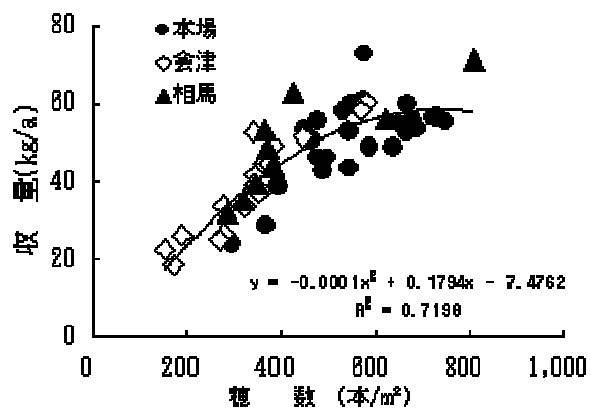


図4 「ゆきちから」の穂数と収量
(2001～2003年産)

Ⅲ その他

1 執筆者

丹治克男、佐藤 誠

2 主な参考文献・資料

なし